



環府學子



Interfaculty Initiative in Information Studies  
Graduate School of Interdisciplinary Information Studies  
The University of Tokyo

number.

21

# 情報学環・福武ホール

## 竣工記念式典開催

情報学環は、福武総一郎氏をはじめ各界から御寄付を賜り、  
 本学特別栄誉教授 安藤忠雄氏の設計による情報学環・福武ホールの建設を進めてきた。

この度その建設が完了し、2008年3月26日(水)に竣工披露が行われた。

「情報学環・福武ホール」は、最先端の設備を備えた高度情報化社会における  
 教育・文化・コミュニケーション研究の拠点として建設され、情報学環で展開されている学際的な情報研究と、  
 情報化社会における様々な課題を接続する場として設計されている。

「情報学環・福武ホール」正面玄関で、企画広報委員長深  
 代准教授(当時)司会によりテープカットが行われた。写真左  
 から、吉見俊哉情報学環長、安藤忠雄特別栄誉教授、福武  
 総一郎株式会社ベネッセコーポレーション代表取締役会長  
 兼CEO、西尾茂文理事・副学長。



テープカットに続き、安藤忠雄先生による記念講演「発  
 想と実行力」が行われた。つめかけた200名近い聴衆が見  
 守る中、「(福武ホールが)安田講堂を超える存在になり、世  
 界に向けて『共に生きる』というメッセージを発信する場  
 になってほしい」と話された。



竣工記念式典では、小宮山宏東京大学総長より挨拶があ  
 り、知識が交流する場としての福武ホールの成果への期待  
 が表明された。その後、福武総一郎氏をはじめ、ご寄付い  
 たいただいた各界の方々への感謝状が贈呈された。



式典の後で行われた施設見学では、施設の利用イメージ  
 を理解していただくためのデモンストレーションが行われ  
 た。福武ラーニングシアターでは、インド/中国との国際  
 遠隔授業、福武ラーニングスタジオでは、タブレットPCを  
 用いた授業と子ども向けワークショップ、テラスでは、イ  
 ンタラクティブアート展示「iii exhibition 'extra」、UTカ  
 フェでは、トークイベント「U-Talk：やわらかなロボット」  
 など、多様なイベントが展開された。

夜の竣工記念祝賀会では、UTカフェの運営をしている柳  
 館シェフの料理を楽しみながら歓談が行われた。最後には  
 福武総一郎氏より、毎年この時期にここに集まったメンバ  
 ーで同窓会をしようという提案が行われ、盛会のうちに、  
 竣工式典は幕を閉じた。

**地上2階**

階段	山内研	山内研	西垣研	EV 階段	資料室	吉見研	馬場研	佐倉研	水越研	北田研	林研	階段
----	-----	-----	-----	----------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----

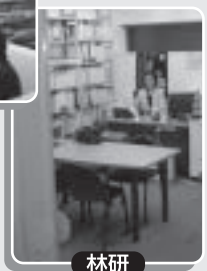
この部屋の主は学環長業務に幽閉され、研究室に来ることもままなりません…



**吉見研**  
片付け中の急な撮影依頼にも関わらず、笑顔でフレームに収まってくださった佐倉先生です



**水越研**  
スタッフ、院生といつも賑やか、楽しげな水越研です



**林研**  
ガラスドアの外から撮影…「こんな感じで外から中が全部見えます。居眠りはできません。」

廊下:研究室前の長い廊下

# Floor à la carte

フロア・アラカルト  
~各階のアルバムから

▲The second floor on the ground



**地上1階**

◀階段:建物中央のらせん階段。見上げるとそこには光の環が…



**学環コモンズ**  
3月14日、教職員の送別会が開かれました

福武ホールの予約はここで管理されています



コンシェルジュの原田さん

コーヒーを飲みながら気軽に知的な会話を楽しめるカフェです

**UTカフェ ベルトレージュ**



▲The first floor on the ground

**地下1階**

**全学スペース**

史料編纂所、図書館、情報基盤センターの施設が入っています

▲The first floor in underground

**地下2階**

部屋のパーティション、レイアウトは自由自在に…主に授業で使われます

**福武ラーニングスタジオ**



**福武ラーニングシアター**  
180名収容のホールでは19年度学府学位授与式が行われました



**記者会見**

福武ラーニングスタジオにて、UTカフェオープン記者会見

▲The second floor in underground



## \* ようこそ \* おつかれさまでした \*

## 着任教員自己紹介



## 石上英一(いしがみ えいいち) 教授

史料編纂所では、電算機システムの導入や歴史情報データベースの開発にも参加してきました。04年からは奄美諸島史、南島画像史料の研究を始めたところです。情報学環で、歴史情報論の研究をさらに展開したいと思えます。



## 鷹野 澄(たかの きよし) 教授(総合防災情報研究センター)

専門は情報地震学で、学内の多くの分野の皆様の協力を頂き、首都直下地震の想定被害を半減する為の「緊急地震速報とIT強震計を用いた総合的な地震防災情報システム」の大学モデルを開発する予定です。



## 田中 淳(たなか あつし) 教授(総合防災情報研究センター長)

4月1日付けで総合防災情報研究センターに着任しました。防災・減災は多くの智を必要とします。故廣井先生の御遺志を継承し、智の結節点としてセンターを機能させねばなりません。皆様のご支援をお願い申し上げます。



## 古村孝志(ふるむら たかし) 教授(総合防災情報研究センター)

地震研究所から総合防災情報研究センターに参りました古村孝志です。大地震の揺れが日本列島を広がり、平野に大きな揺れが生まれる過程を、高密度地震観測とコンピュータシミュレーションをもとに調べています。



## 溝口 勝(みぞぐち まさる) 教授

農学生命科学研究科から来ました。農家の倅ということもあって「農」に拘っています。専門は土壌物理学。現在は農作物生産現場と食卓をつなぐ「リアルタイム農地情報モニタリングシステム」を研究しています。



## 丹羽美之(にわ よしゆき) 准教授

専門はテレビ研究です。テレビの番組や文化を歴史的・社会的に研究しています。また最近では映像を分析するだけでなく、作ることに興味があります。映像を用いた社会的な研究の方法と可能性について考えています。



## 真鍋祐子(まなべ ゆうこ) 准教授

研究対象は韓国および中国の朝鮮民族社会の文化について、専攻は社会学(一応)です。3歳双子(♂♀)の子育て中。そのため何かとご迷惑をおかけすると思いますが、今後、3年間どうぞよろしく願いいたします。



## 柳原 大(やなぎさわ らいたい) 准教授

4月より流動として大学院総合文化研究科から参りました柳原大です。専門は神経科学、運動生理学で、特に運動の制御・学習・記憶における脳の働きについて遺伝子レベルから個体・行動レベルまで研究しております。

## 人事異動

## 教員

採用	4/1	田中 淳	教授(総合防災情報研究センター)
	4/1	丹羽 美之	准教授
	4/1	小笠原 盛浩	助教
	4/1	竹内 文乃	助教(大学院医学系研究科より)
	4/1	中村 仁	特任講師(コンテンツ創造科学産学連携教育プログラム)
	4/1	別所 正博	特任助教(「コビキタス情報社会基盤学」寄付講座)
	4/1	味八木 崇	特任助教(21世紀COEプログラム「次世代コビキタス情報社会基盤の形成」)
	4/1	湧田 雄基	特任助教(「OKIコビキタスサービス学」寄付講座)
	4/1	滝田 啓介	特任研究員(「コビキタス情報社会基盤学」寄付講座)

配置換(転入)	4/1	鷹野 澄	教授 / 総合防災情報研究センター(地震研究所から)
	4/1 <td>溝口 勝 <td>教授(大学院農学生命科学研究科から)</td> </td>	溝口 勝 <td>教授(大学院農学生命科学研究科から)</td>	教授(大学院農学生命科学研究科から)
	4/1 <td>石上 英一 <td>教授(史料編纂所から)</td> </td>	石上 英一 <td>教授(史料編纂所から)</td>	教授(史料編纂所から)
	4/1 <td>古村 孝志 <td>教授 / 総合防災情報研究センター(地震研究所から)</td> </td>	古村 孝志 <td>教授 / 総合防災情報研究センター(地震研究所から)</td>	教授 / 総合防災情報研究センター(地震研究所から)
	4/1 <td>真鍋 祐子 <td>准教授(東洋文化研究所から)</td> </td>	真鍋 祐子 <td>准教授(東洋文化研究所から)</td>	准教授(東洋文化研究所から)
	4/1 <td>柳原 大 <td>准教授(大学院総合文化研究科から)</td> </td>	柳原 大 <td>准教授(大学院総合文化研究科から)</td>	准教授(大学院総合文化研究科から)

(転出)	4/1	深代 千之	教授(大学院総合文化研究科へ)
	4/1 <td>永ノ尾 信悟 <td>教授(東洋文化研究所へ)</td> </td>	永ノ尾 信悟 <td>教授(東洋文化研究所へ)</td>	教授(東洋文化研究所へ)
	4/1 <td>本郷 和人 <td>准教授(史料編纂所へ)</td> </td>	本郷 和人 <td>准教授(史料編纂所へ)</td>	准教授(史料編纂所へ)
	4/1 <td>影澤 政隆 <td>助教(生産技術研究所へ)</td> </td>	影澤 政隆 <td>助教(生産技術研究所へ)</td>	助教(生産技術研究所へ)

辞職	3/31	伊藤 陽一	助教(北海道臨床開発機構特任講師へ)
	3/31	吉海 智晃	助教(大学院情報理工学系研究科特任講師へ)

任期満了	3/31	有賀 清一	助教(桜美林大学講師へ)
	3/31	金 相美	特任講師
	3/31	竹之内 禎	特任講師
	3/31	山田 和明	特任講師
	3/31	荒牧 浩二	客員准教授

## 職員

退職年	3/31	福田 幸雄	事務長
	4/1	柳田 則幸	事務長(柏地区人事・労務G長から)
	4/1	小竹 正広	学務担当主査・学務係長兼務(国際連携G・国際連携C・係長から)
	4/1	藤井 真嗣	会計係長(情報学環会計主任から)
	4/1	竹田 智彦	会計係(農学系経理課経理執行Cから)
	4/1	土井 平安子	学務係(新採用)
	4/1	福土 正人	学務担当主査・学務係長兼務(工学系学務支援G専攻C副課長へ)
	4/1	福島 まり	会計係長(保健センター本郷事務係長へ)

## 福田幸雄 情報学環事務長 ご定年退職



国文学研究資料館を皮切りに東大、山梨医科大学、長岡工業高等専門学校、鳥取大学、岡山大学、名古屋大学、横浜国立大学と全国を異動されたのち、2006年春、吉見学環長誕生と同時に情報学環事務長に就任。学環の発展のために尽力されました。

学環での2年間は元気な先生方からたくさんパワーを貰い、あつという間だったとのこと。退職後は英語の勉強に磨きをかけ、世界へ出掛けることが目標と伺いました。学環同様フレッシュで活動的な福田事務長のご健康と益々のご活躍をお祈りいたします。

制作展

## 【iii Exhibition 8】開催



2007年12月7日から13日にかけて、学生による制作展【iii Exhibition 8】が開催された。制作展は、芸術と科学技術の融合によって生まれる新しい表現を、学生の手で発信することを目的に、学際情報学府と情報学環コンテンツ創造科学産学連携教育プログラムの合併授業の一環として行われている。第8回となる今回は、技術的レ

ベルの追求だけでなく新たな発想を伴った作品が多く展示された他、立体的なキャプションと空間の有効利用によって、統一感を保持しつつ作品を際立たせる会場作りがなされた。また、ブログによって様々な情報を発信するなど、新しい試みも行なわれた。期間中は、学内外から500名以上の来場者を迎え、評判の良い展示となった。(佐倉研M2・野澤紘子)

次回は6月下旬開催予定。詳細は制作展Webサイトにて。  
<http://i3e.iii.u-tokyo.ac.jp/>

## 優秀修士論文発表会

2月22日、昨年に引き続き第二回目となる優秀修士論文発表会が工学部2号館93B教室にて行われた。優秀修士論文に選ばれた8名の内、この日7名が発表を行い、吉野祥之さんが最優秀賞に選ばれ、表彰された。選ばれた8名と論文タイトルは以下の通り。



- 木下 裕美子 (社情) 3つの移行期とイノベーション政策:ITC、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー  
副題:イノベーションシステムにおけるサービスの役割
- 志鎌 由佳里 (社情) デジタル・ネットワーク環境下における著作権の在り方に関する考察
- 周 倩 (文人) 現代中国における「中産階級」イメージの析出—メディア分析と社会分析をつなぐ
- 石坂 唯 (理数) アニマシー表現のための柔軟ロボット外装のデザインと実現
- 鳴海 拓志 (理数) 空間型メディアコンテンツに関する研究
- 吉野 祥之 (理数) 超音波を用いた空間的な音像提示システムの研究
- 中村 圭一 (分析) アクティブRFIDタグによる移動体の接近検知システム
- 矢代 武嗣 (分析) T-Kernel/SS:ユビキタス・コンピューティングのためのセキュア・ファイルシステム

## コンテンツ教育プログラム修了証書授与式

コンテンツ創造科学産学連携教育プログラムの修了式が、3月15日(土)に工学部2号館93B教室で行われた。第3回となる今年度の修了生は21名であった。式には同プログラムの特任教員でもある(株)コーエーの松原健二氏、(株)モバイル&ゲームスタジオの遠藤雅伸氏、(株)GDHの公野勉氏らが列席し、修了生に祝辞を述べた。



## 情報学環教育部 修了式



情報学環教育部は、情報、メディア、コミュニケーションについて学びたい人々のために、2年間にわたって情報学の体系的な教育を行う教育組織である。大学院でもなく、学部でもない、ユニークな情報学環教育部の歴史は半世紀を超える。

19年度の教育部修了式が3月18日、情報学環本館2階教室で行われた。今年度修了者は9名。

## 学際情報学府学位記 授与式

3月24日、平成19年度学際情報学府の学位授与式が、情報学環・福武ホールB2階 福武ラーニングシアターで行われた。

情報学環・福武ホールが竣工して初めての式である。吉見学府長より修士課程修了者61名に学位記が渡され、真新しいホールが一層華やかな式典となった。



## SYMPOSIUM

Interfaculty Initiative in Information Studies Graduate School of Interdisciplinary Information Studies The University of Tokyo

## 情報学環に総合防災情報研究センター(CIDIR)設置 設立準備シンポジウム開催



ほぼ満員の会場

総合防災情報研究センターは、情報学環、地震研究所、生産技術研究所の三部局が連携する文理融合型の総合的な防災研究機関です。「情報」の概念を核とし、東京大学内外の防災関係機関とも連携を図り、防災に関する知の結節点として機能する新たな研究機関を目指しています。日本列島は地震学的な活動期に入り、地球温暖化の影響により巨大台風が増加すると言われています。このような大規模な自然災害の対策として災害危険度の判定や周知、事前の予測、災害からの避難、復旧復興の体制作りなど「情報」のもつ役割は重要です。「情報」を核に「減災」をめざす、これが総合防災情報研究センターのミッションです。災害情報学の第一人者であった故廣井侑教授は、生前、総合

的な防災研究の必要性を強く訴えておられました。その思いや業績も引継ぎでいきます。場所は廣井研があった情報学環の10Fです。是非一度いらしてください。

去る3月12日には、生産技術研究所コンベンションホールで、センターの設立準備シンポジウムが開催されました。冒頭、吉見俊哉情報学環長、大久保修平地震研究所長、前田正史生産技術研究所長からご挨拶を頂き、前半の講演会では京都大学防災研究所の河田恵昭教授、センター長の田中淳教授から防災研究の今後の展望などについてご講演を頂きました。後半のパネルディスカッションでは、NHK解説委員の山崎登さんを座長に、内閣府の池内幸司参事官、地震研の瀬藤一紀教授、生研の目黒公郎教授、センターの鷹野澄教授、河田恵昭教授、田中淳教授をパネリストに、首都直下地震に備えた災害情報のあり方やセンターへの期待などについて、会場とのやりとりも交えた熱心な議論がなされました。定員200名の会場がほぼ満員になる盛況でセンターに対する熱い期待を感じました。(総合防災情報研究センター特任教授・須見徹太郎)

### International Symposium:

"Challenges for English-Language Newspapers in East Asia."

Co-hosted by The Japan Times and iiii in commemoration of

The Japan Times' 110th anniversary and the U of Tokyo's 130th anniversary.



On February 16 2008, a beautiful winter day, one of Today's newest auditoriums, Tetsumon-Kôdô was filled by an audience of more than 200 people. This international symposium, organized jointly by The Japan Times and the University of Tokyo, was aimed at exchanging

opinions on the role played by English-language newspapers in promoting closer ties among East Asian countries.

In the keynote speech, Michel Temman, Japan representative for Reporters Without Borders, the Paris-based defender of the freedom of the press, criticized the exclusive nature of Japan's journalism culture.

This was followed by a panel discussion, moderated by Kaori Hayashi, Associate Professor in the Graduate School of Interdisciplinary Information Studies of the University of Tokyo. The panel consisted of senior journalists and academic experts from the region: Kim Hooran, an editorial writer for The Korea Herald, Sayuri Daimon, national news editor at The Japan Times, Amber Chang, editor in chief of The Taipei Times, Kang Myungkoo, a professor of communication studies at Seoul National University, and Denis Peng, director of the Graduate Institute of Journalism and Multimedia Production Center at National Taiwan University.

Participants agreed that English-language newspapers in East Asia provide unique perspectives on political, economic and cultural news in the region to a global community where English is the dominant tongue. At the same time, they recognized that the application of many of the new digital technologies may be the key to these newspapers' future at a time when the majority of those who read them do so online. (by Kaori Hayashi, associate professor, iiii)

### アントニオ・ネグリ氏講演会

## 「新たなるコモンウェルスを求めて」 開催

3月29日、東京大学安田講堂で「東京大学創立130周年記念事業 アントニオ・ネグリ氏講演会 新たなるコモンウェルスを求めて」が開催されました。アントニオ・ネグリ氏は、現代社会の卓越した分析で著名な思想家ですが、直前で来日が不可能となりました。ネグリ氏不在



会場となった安田講堂には長蛇の列が...

にもかかわらず、当日には800名を超える人々が集まり、ネグリ氏の講演について、姜尚中東京大学大学院情報学環教授、上野千鶴子東京大学大学院人文社会科学系研究科教授、石田英敬東京大学大学院情報学環教授、鶴飼哲一橋大学大学院言語社会研究科教授の活発な討論に耳を傾けました。さらに、電話を通じて、ネグリ氏の声が生かされ、会場に届けられ、吉見俊哉情報学環長の言葉通り、物理的移動の壁となった国家間の境界を情報技術が乗り越えることが示されました。また、共催団体の東京芸術大学のイベントにも、500名を超える人びとが集まり熱気に満ちた議論がなされました。(ネグリ氏講演会事務局)



熱気あふれる場内を埋め尽くす聴衆

### 東京大学21世紀COE・次世代 ユビキタス情報社会基盤の形成 第14回シンポジウム 「デジタルアーカイブの『標準化』に向けて」 開催

情報学環21世紀COE「次世代ユビキタス情報社会基盤の形成」は、1月15日、第14回シンポジウムとしてプロジェクトA「ユビキタス情報コンテンツ形成プロジェクト」を中心とし、「デジタルアーカイブの『標準化』に向けて～次世代アーカイブとユビキタス技術が拓く未来」と題したシンポジウムを鉄門記念講堂において開催した(共催:凸版印刷株式会社)。

基調講演として坂村健教授による「ユビキタス情報社会基盤としてのデジタルアーカイブ」、報告として東京国立博物館情報管理室長の田良島哲氏による「ミュージアムの未来とデジタル・アーカイブ」が行われ、パネルセッションでは国際資料研究所の小川千代子代表、凸版印刷株式会社文化事業推進本部部長の加茂竜一氏、筑波大学図書館情報メディア研究科の杉本重雄教授が登壇し、情報学環の研谷紀夫特任助教とともにアーカイブの今日的課題についての積極的な議論が行われた。

また、会場外には凸版印刷株式会社のアーカイブデモンストレーションをはじめ、馬場章研究室の「文化資源統合アーカイブ」、吉見俊哉研究室の「第一次世界大戦期プロパガンダ・ポスター」アーカイブなどが展示され、参加者から好評を博した。(特任助教・添野勉)

### 東京大学21世紀COE・次世代 ユビキタス情報社会基盤の形成 第15回シンポジウム 「ユビキタスではじまる サービスイノベーション」開催

2月4日、安田講堂で「OKIユビキタスサービス」寄付講座の開設を記念して標記のシンポジウムが開催された。

シンポジウムでは坂村健教授、篠塚勝正OKI社長による基調講演が行われ、ユビキタスサービスが社会に普及するにはオープンでユニバーサルな基盤が整備される必要があると指摘した。引き続き篠塚社長、JR東日本の小野由樹子氏、須藤修教授によりパネルディスカッションが行われ、普及課題や今後期待されるユビキタスサービスについて熱のこもった議論がなされた。

会場には多くの参加者が集まり、充実した内容に好評を博すことができた。(客員准教授・下畑光夫)



原田至郎准教授  
カンボジア王国政府学術勲章を受章

2007年5月、コンピュータにおけるクメール文字利用の標準化に貢献した人々にカンボジア王国政府学術勲章を授与する政令にフン・セン首相が署名し、原田至郎准教授にはOfficerの叙勲が決ま

りました。10月2日、ブノンペンで開催されたセミナーの中で授賞式が開かれ、原田准教授は「コンピュータにおけるクメール文字標準化委員会」のスム・マニット委員長から勲章と賞状を授与され、記者会見に列席し、招待講演を行いました。原田准教授は、1999年以来、従来の方法の非効率性や非互換性などの問題点を指摘し、クメール文字の特徴を尊重した効率的な文字コード標準を提案し、ユーザに優しい実装例を提示するとともに、カンボジアやクメール文字利用者の十分な参加なしに作成された国際標準の技術的および制度的な問題を指摘・分析・改善する活動を行ってきており、委員からはクメール文字による情報交換基盤の基礎を築いたと評価されました。(准教授・原田至郎)

### 文の京・大いなる学びシリーズの開催

2007年12月18日(火)に、文京区との大学連携事業「文の京・大いなる学びシリーズ」の第2回目が文京シビックセンターで開催された。このシリーズは、大学における先端研究を地域住民の学びのコンテンツとして開放することを目的に、情報学環コンテンツ創造教育研究コアが主催、文京区と連携して行っている。

今回のテーマは「アートとサイエンスーその不思議な関係」。展覧会「さわって遊ぶく1日だけの>メディアアート展」では、「iii Exhibition」の過去の出展作品を中心に展示し、500名以上の参加者が、作品に触れていった。引き続き開催された、サイエンスサロン「芸術と科学はどう結びつのか?」では、脳科学者の茂木健一郎氏をゲストに迎え、河口洋一郎教授とのトークセッションを、原島博教授の司会で展開。区民ひろばに設置した170席は満席となり、「施設はじまって以来の盛況」(文京区関係者談)となった。(特任助教・松野将宏)



河口教授、原島教授、茂木氏が並んで

### 情報学環大井町プロジェクト 「立会小学校一日東大生」実施

2007年12月7日、快晴の空の下で「立会小学校一日東大生」が実施されました。情報学環大井町プロジェクトでは、子どもたちの「理科離れ」に対する実験的なアプローチとして、毎年日本科学未来館での調べ学習を実施していますが、2006年度より、より長期的な観点からの学問への関心を喚起するため、対象となる品川区立立会小学校の六年生児童を東京大学に招待し、模擬講義や構内見学を通じて学び続けることへの意欲や興味を涵養する試みを行っています。当日は星野豊校長をはじめ、地元大井銀座商店街の協力者の方や保護者を含め、児童と併せ約80名が来訪しました。

本年度は情報学環、学際情報学府による「iii exhibition」の協力を得、見学コースに組み込むことで、大学院生の活動の一環を体験的に学ぶことが可能になったほか、北田暁大准教授によるマンガを素材とした模擬講義を行いました。北田准教授による講義は児童・保護者にも好評で、小学校に戻

ってから引き続きその分析手法に関心を示して実践する児童があるなど、意義のある試みとなりました。(特任助教・添野勉)

### 「∞のこどもたち」展

2月24日から3月3日まで日本科学未来館にて、都内公立小学校のこどもたちの図工作品大小約500点が展示され、ワークショップ、関連シンポジウムなどが開催されました。「図工の時間」を充実することは未来の科学技術にもつながる、というメッセージを応援するため情報学環コンテンツ創造科学産学連携教育プログラム、情報学環コンテンツ創造教育研究コアもこの活動に協力しました。(特任研究員・坂井理笑)



### 協働的メディア・リテラシーの 「ろっぽんプロジェクト」2年度めに

水越伸研究室では、(株)テレビ朝日との間でメディア・リテラシーの共同研究「放送局と視聴者の協働的メディア・リテラシー活動の体系的構築」を始めています。これまでもメルプロジェクトをはじめ、マスメディアの送り手と受け手の回路作りにより具体的に取り組み、批判的で実践的な新しいタイプのメディア・リテラシーの地平を切りひらいてきましたが、今回は東京の大型放送局のケースとなります。07~09年度の3年度計画で、最終的にはメディア・リテラシーを超え、放送局を基盤としたデジタル時代における市民のメディア表現の可能性に取り組みます。一連の成果はメディア業界、市民社会に向けて広く公開します。プロジェクト名は、テレビ朝日の所在地「六本木」と東京大学の所在地「本郷」からの造語。(准教授・水越伸)

### 2008年度 表紙テーマ

#### 「学環」の「環」をイメージした“スパイラル”

様々な情報や研究結果やあふれる知識が、輪を描く様に前に進んで行く感じを表現しています。スパイラルにカラーズされた写真は学環・学府の「今」を表現すると同時に、中の記事へと読者を誘います。

【東京大学大学院情報学環・学際情報学府】

# 学環学府

Interfaculty Initiative in Information Studies

Graduate School of Interdisciplinary Information Studies

The University of Tokyo

number.

21